

## 第5回国語ワーキンググループの議題

# 国語科を通じて育成する資質・能力 の在り方・示し方等について

- 「目標」等、「見方・考え方」、「高次の資質・能力」の在り方について (ver.3)
- 学習内容に関する課題を踏まえた検討～知識及び技能に関して～

# 国語科を通じて育成する資質・能力の在り方・示し方等について

- 「目標」等、「見方・考え方」、「高次の資質・能力」の在り方について（ver.3）
- 学習内容に関する課題を踏まえた検討～知識及び技能に関して～

論点 1 「目標」等の在り方（ver.3）

論点 2 「見方・考え方」の在り方（ver.3）

論点 3 「高次の資質・能力」の在り方（ver.3）

【第2回総則・評価特別部会で示された構造化・表形式化イメージを基に作成】

## 目標

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について、●●することなどを通して（学習過程）、次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

（見方・考え方）

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

## 内容

（並行パターン）

思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 XXXXXXXXXXXXXX	1)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
	2)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
	3)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX
知識及び技能に関する統合的な理解 XXXXXXXXXXXXXX		・XXXXXXXX ・XXXXXXXX	

## 【本日の論点】

### 論点1 「目標」等の在り方（ver.3）

#### ①目標の柱書

・国語科の資質・能力の趣旨や学習過程について、目標にどのように記載すべきか

#### ②資質・能力の柱ごとの目標

・国語科の知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力・人間性等について、目標にどのように記載すべきか

### 論点2 「見方・考え方」の在り方（ver.3）

#### ③見方・考え方

・国語科の見方・考え方について、総則・評価部会の整理を踏まえてどのように考えるか

### 論点3 「高次の資質・能力」の在り方（ver.3）

#### ④高次の資質・能力

・「高次の資質・能力」について、「知・技」「思・判・表」の深まりの可視化を通じて「深い学び」を実現する単元づくりのイメージを教師が持てるようにする役割を担うこととされている中、論点2を踏まえ、国語科における「高次の資質・能力」をどのように考えるか

## 1. 見方・考え方を含む目標の柱書きの示し方と改善の方向性

### 【現行】各教科等の目標の柱書（例：中学校国語）

言葉による見方・考え方を働かせ(見方・考え方)，言語活動を通して(学習過程)，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力(資質・能力の趣旨)を次のとおり育成することを目指す

### 【現行の解説】見方・考え方の記述

「対象と言葉，言葉と言葉との関係を，言葉の意味，働き，使い方等に着目して捉えたり問い直したりして，言葉への自覚を高めること」

### <現行の記述ぶりの課題>

- 現在，各教科等の目標の柱書には，①見方・考え方，②教科に特徴的な活動，③資質・能力の趣旨が記載されており，冗長で分かりにくいとの指摘。一方，特に「見方・考え方」の具体は解説に落とされており，併せて読まないと分からない。

### <論点整理で示されたこと>

- 論点整理では，「見方・考え方」を，各教科等を学ぶ本質的な意義の中核に焦点化した上で，その具体を，解説ではなく学習指導要領本体に位置付ける方向性を示している
- また，論点整理では，「見方・考え方」の意義について，「教科固有の様々な世の中を見る視点や考え方が豊かになることで，徐々に資質・能力の育成を導く」といった観点だけでなく，「よりよい社会や幸福な人生に繋げる」とも位置付けており，学校教育のみならず，その後の人生でも豊かに働くことを視野に入れている

分かりやすく，使いやすいを目指す上で

- 特定の学校種・教科で育成したい資質・能力の趣旨等を端的に表す目標の柱書に，卒業後まで視野に入れた見方・考え方まで含めて書き下すと焦点が定まらなくなる
- 目標の柱書は，育成したい資質・能力の趣旨や固有の学習過程を端的に示すべきであり，見方・考え方は，目標直下に別途欄を設け記載してはどうか

## 2. 1.を踏まえた書きぶり（イメージ）

### （目標）

●●する資質・能力(資質・能力の趣旨)について，●●することなどを通して(学習過程)，次のとおり育成することを目指す。

知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力・人間性等
--------	--------------	--------------

### （見方・考え方）

●●(当該教科で扱う事象や対象)を●●(当該教科固有の物事を捉える視点)の視点から捉え(に着目して捉え)，●●(当該教科固有の考え方や判断の仕方)すること。

### （見方・考え方に含まれる要素）

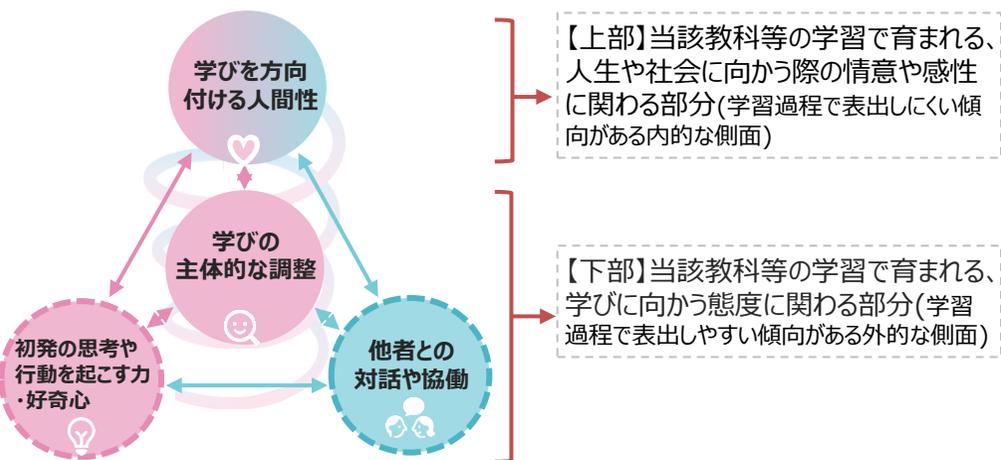
- 見方・考え方については，以下のような要素を含めることを基本に，各教科等の特質に応じて検討してはどうか
  - ① 当該教科等が扱う事象や対象
  - ② 当該教科固有の物事を捉える視点
  - ③ 当該教科固有の考え方や判断の仕方
- これらの要素を示す事により，教師が児童生徒の学習・指導を構想する際に「教科の本質を外していないか」を確かめられるものとなっているかという視点を大切にすることが重要ではないか

### （見方・考え方の書きぶりに共通する留意事項）

- これまで各教科等の見方・考え方の書きぶりで示していた各教科等の深まりの鍵を示す部分は，構造化により示す中核的な概念等を通じて示すこととしているため，新たな見方・考え方の書きぶりについては現在よりも短く端的に示すことを基本としてはどうか
- 当該教科等を学ぶ本質的な意義の中核をわかりやすく示す観点からは，経験の浅い教師が読んでも端的に理解可能な記述となっているかという視点を重視して示し方を検討してはどうか(学習・指導を通じて，最終的に児童生徒が意識できるかという点も留意)

## 1. 論点整理で示された方向性及び企画特別部会での議論

- 論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」について、主要な要素や要素間の関係を構造化して分かりやすく示す観点から、下記の4つの要素により整理する方向性が示された
- 企画特別部会における議論の過程では、「学びに向かう力・人間性等」が単によりよい知の獲得に向けた力としてのみ捉えられてはならず、学習したことを踏まえて人生や社会に向かう際の情意・感性に係る側面も重視すべきとの強い意見があった



- また、論点整理では、「学びに向かう力・人間性等」の学習評価に関し、個人内評価を基本とした上で、学びに向かう態度に関わる下部の3要素については、学習評価において、「思考・判断・表現」の過程で特に表出した場合には「○」をつける方向で検討するとされている
- 「学びに向かう力・人間性等」は、学習指導要領の「内容」に原則として記載がなく、学習評価に当たっては教科等の「目標」を踏まえて行うこととなるため、そうした点も踏まえた「目標」の書きぶりが重要

※ 現行、各教科等において育成する「学びに向かう力・人間性等」は、個別の学習内容に応じて異なることが想定されにくいため、原則として各教科等の「目標」水準でのみ記載されている。こうした性質は、今回の論点整理に伴って変わるものではない。

## 2. 1. を踏まえた目標における書きぶり

- 1. を踏まえると、「学びに向かう力・人間性等」の目標については、全ての要素を個別に盛り込もうとすることで冗長となることを避けつつ、以下の2つの要素をバランス良く含めることとしてはどうか

### ① 当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度

学びにおいて、好奇心を持って初発の思考や行動を起こし、他者との対話や協働を経ながら、学びを主体的に調整し、次の思考や行動に繋げていく態度について、教科固有の学習過程を踏まえた言葉で示す  
(現行の例：自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度(中・理科))  
→ 学びに向かう態度に係る3つの要素を踏まえた見直し

### ② 当該教科等の学習で育みたい情意・感性

人生や社会との関わりにおいて育みたい情意や感性を示す  
(現行の例：自然を愛する心情(小・理科)、明るく豊かな生活を営む態度(中・体育)など)

- 一方、現行でも、複数分野を有する社会科など、多くの内容が盛り込まれ目標の書きぶりが複雑な教科もある中、分かりやすく使いやすい学習指導要領を目指す上では、今回の見直しで一層複雑となることは避ける必要
- こうしたことを踏まえ、目標については、表形式となることも踏まえ、箇条書きも利用して分かりやすく構造化することを可能としてはどうか(この点は知識及び技能、思考力、判断力、表現力等の目標も同様)



# 目標における柱書の案

## 論点1 「目標」等の在り方 (ver.3)

### 【改訂案の検討ポイント】

- 話すこと・聞くこと，書くこと，読むことを通して：「聞いたり読んだり，話したり書いたりする」という表現では、「話し合うこと」が十分に含まれないように受け取られる恐れがあることや、国語科は、各領域の学習過程を通して資質・能力を育成することが重要であるとの整理（第4回WG）を踏まえ、学習過程は「話すこと・聞くこと，書くこと，読むこと」と端的に示してはどうか。
- 柱書では、国語科で育成したい資質・能力の趣旨を学校種共通で端的に示し、**資質・能力の柱ごとの目標（「知識及び技能」、「思考力、判断力表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」**）は、発達段階に応じて学校種ごとに系統的に示してはどうか。

### （第4回WGで示した改訂案）

国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，聞いたり読んだり，話したり書いたりすることなどを通して，次のとおり育成することを目指す。

（目標）

●●する資質・能力（資質・能力の趣旨）について，●●することなどを通して（学習過程），次のとおり育成することを目指す。

### 改訂案 (ver.3)

国語で理解し，考え，表現する資質・能力について，**話すこと・聞くこと，書くこと，読むこと**を通して，次のとおり育成することを目指す。

### 現行

言葉による見方・考え方を働かせ，言語活動を通して，国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。



# 目標における「知識及び技能」の案

## 論点1 「目標」等の在り方 (ver.3)

### 【改訂案の検討ポイント】

- **日常生活／社会生活／生涯にわたる社会生活**に必要な国語について：学習の対象となる国語について、学校種に応じて扱う生活の位相を整理し、**小学校では日常生活、中学校では社会生活**に必要な国語を中心に位置付けてはどうか。更に、**高等学校では、卒業後にも連綿と続いていく学びであるという時間軸も意識し、生涯にわたる社会生活**に必要な国語として位置付けてはどうか。
- 特質を深く理解し：高等学校では、中学校段階の学習を踏まえ、**理解の深化に重点を置くことを明確に示してはどうか。**
- 言語文化に**触れながら**親しむ（小）、言語文化に**親しみながら**理解（中）、言語文化を**深く**理解（高）：言語文化については、**小学校では我が国の言語文化に触れ、親しむことを重視し、中学校ではその学習を基に親しみながら理解**することを重視し、**高等学校では小・中学校段階の学習を踏まえて理解を一層深める**こととするなど、発達段階に応じ系統的に示してはどうか。

### (第4回WGで示した改訂案)

小学校	中学校	高等学校
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化に親しむことができるようにする。	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化を理解できるようにする。	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うとともに我が国の言語文化を深く理解できるようにする。

### 改訂案 (ver.3)

小学校	中学校	高等学校
日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に <b>触れながら</b> 親しむことができるようにする。	社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に <b>親しみながら</b> 理解できるようにする。	生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を <b>深く</b> 理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を深く理解できるようにする。

### 現行

小学校	中学校	高等学校
日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。



# 目標における「思考力，判断力，表現力等」の案

## 論点1 「目標」等の在り方 (ver.3)

### 【改訂案の検討ポイント】

- 筋道立てて考える力（小）、論理的に考える力（中・高）、豊かに感じたり想像したりする力（小）、深く共感したり豊かに想像したりする力（中・高）：全ての学校種で「論理的に思考する力や豊かに想像する力」と一律に示すと、発達段階に応じた目標が見えにくくなる恐れがあるため、小・中・高において、思考力や想像力に関する力を学校種ごとの発達段階に応じた目標として示してはどうか。

### (第4回WGで示した改訂案)

小学校	中学校	高等学校
日常生活における人との関わりの中で、国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め、論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。	社会生活における人との関わりの中で、国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め、論理的に思考する力や豊かに想像する力を養う。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、国語を通して互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め、論理的に思考する力や豊かに想像する力を伸ばす。

### 改訂案 (ver.3)

小学校	中学校	高等学校
国語で筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。

### 現行

小学校	中学校	高等学校
日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

# 🔗 目標における「学びに向かう力，人間性等」の案

## 論点1 「目標」等の在り方 (ver.3)

### 【改訂案の検討ポイント】

- ①の「当該教科等の学習で育みたい学びや生活に向かう態度」については、小学校では、表現や伝え合いの過程に注意を向けること、中学校では、その過程を確かめながら捉え直すこと、高等学校では、過程を吟味することに重点を置いて、学校種に応じて系統的に示してはどうか。
- ②の「当該教科等の学習で育みたい情意・感性」については、「国語を尊重する態度を養うこと」を基盤として、そのために必要となる言語感覚の高まりや、言語文化への関わり方について、学校種に応じて系統的に示してはどうか。

### (第4回WGで示した改訂案)

小学校	中学校	高等学校
①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い、他者との関わりの中で振り返り、言葉がもつよさを認識し、その能力の向上を図る態度を養う。 ②言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重する態度を養う。	①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い、他者との関わりの中で振り返り、言葉がもつ価値を認識し、その能力の向上を図る態度を養う。 ②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。	①考えたり感じたりしたことを積極的に言葉で伝え合い、他者との関わりの中で振り返り、言葉のもつ価値への認識を深め、その能力の向上を図る態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

### 改訂案 (ver.3)

小学校	中学校	高等学校
①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、 <u>伝え合う過程に気を付けながら</u> 、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を <u>育み</u> 、我が国の言語文化に <u>触れ</u> 、国語を尊重する態度を養う。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、 <u>伝え合う過程を確かめながら</u> 、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、 <u>伝え合う過程を吟味しながら</u> 、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

### 現行

小学校	中学校	高等学校
言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。



# 「見方・考え方」の案

## 論点2 「見方・考え方」の在り方 (ver.3)

### 【改訂案の検討ポイント】

- **自分や他者の言葉**：国語科が扱う「当該教科等が扱う事象や対象」については、日常生活や社会生活における他者との関わりの中で思考・判断・表現する資質・能力を育成する教科特性を踏まえ、学習の対象を「自分や他者の言葉」と示してはどうか。
- **意味、働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し**：現行の「言葉による見方・考え方」の説明に含まれていた、「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目」する側面は、「当該教科固有の物事を捉える視点」として位置付け直し端的に示す観点から、「**意味や働き、使い方や表現の意図に着目**」と示してはどうか。
- **多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと**：「当該教科固有の考え方や判断の仕方」については、言葉の意味や働き、表現の意図を吟味することを通して多様な立場や考えを理解し、相手や状況に応じて言葉を丁寧に選びながら、よりよく伝え合う姿を想定し、「多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと」と示してはどうか。

### (第4回WGで示した改訂案)

自分や他者の言葉を、  
その意味や使い方、表現の意図等に着目して多面的・多角的に吟味し、  
多様な立場や考えを理解しながら、丁寧に言葉を紡ぎ、よりよく伝え合うこと

(見方・考え方)

●● (当該教科で扱う事象や対象) を ●● (当該教科固有の物事を捉える視点) の視点から捉え (に着目して捉え) , ●● (当該教科固有の考え方や判断の仕方) すること。

### 改訂案 (ver.3)

自分や他者の言葉を、  
意味や**働き**、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、  
多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を**選び**、よりよく伝え合うこと

### 現行 (「学習指導要領解説」での説明)

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、  
言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること

※今後の「内容」等の検討や総則・評価特別部会等での全体の調整も踏まえて引き続き検討。

## 【改訂案の検討ポイント】

<思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮、知識及び技能の統合的な理解 共通の検討ポイント>

- 「目的などに応じて」と示していた部分を、より具体的に示す観点から、「**相手や状況、目的に応じて**」（話すこと・聞くこと／書くこと）、「**状況や目的に応じて**」（読むこと）としてはどうか。（小・中・高共通）
- 資質・能力の柱ごとの目標において、学習の対象となる国語については、**小学校では「日常生活」、中学校では「社会生活」、更に高等学校では「生涯にわたる社会生活」として位置付けているという整理を踏まえ、高次の資質・能力についても、校種ごとの目標に応じてその深まりや広がりが適切に表現されるように整理してはどうか。**
- **第4回WGで示した思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮の記載**について、学習で扱う内容が中心となっていた記載を見直し、**相手・状況・目的を踏まえて話し方・書き方・読み方を工夫・調整**することを軸として、小学校段階では「他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深める」（話すこと・聞くこと）、「考えや思いをよりよく伝えること」（書くこと）「理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めること」（読むこと）と整理し、学校種に応じて高次の資質・能力が明確になるよう示してはどうか。

## 【企画特別部会における整理を踏まえた検討ポイント】

第14回教育課程企画特別部会（令和8年2月2日開催）において、各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況の一覧が示され、論点整理で示された資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえた検討がなされたところ、以下の7つの観点については共通して引き続き精査を要すると整理されている。

そのうち、「高次の資質・能力」の検討に当たって特に関連の深い観点（項目1, 2）を踏まえ、改めて検討いただきたい。

【P.12～15参照】

1. 資質・能力の深まりの可視化
2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究
3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査
4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化
5. 用語の一層の整理・検討
6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討
7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- 各WGにおける資質・能力の構造化の検討状況を一覧化し、本部会の論点整理で示した資質・能力の構造化の趣旨や、総則・評価特別部会で整理したチェックポイント等を踏まえ検討したところ、以下1～7については共通して精査を要するのではないかと
- ✓ これら以外に、各WGに対して個別に指摘すべき事項や、各WG共通で検討を要する事項はないか
- ✓ 本日の議論を踏まえて、引き続き総則・評価特別部会や各WGにおいて資質・能力の構造化の具体についてさらに検討を深めることとしてはどうか

## 1. 資質・能力の深まりの可視化

- 今般の構造化を通じ、「深い学び」が実現したイメージを教師が具体的に持つことができるようにすることが重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」B関連）
- こうした視点で見た際に、抽出された「高次の資質・能力」のうち特に「統合的な理解」については、依然として個別の知識及び技能が不足なく身に付いた状態を「要約」して示すに留まっているものも見られる。
- 個々の知識・技能が単に網羅されているかではなく、「指導を通じて学びが深まったときの児童生徒の姿をイメージできるような確に示しているか」といった観点から、各WGで記載を見直し、個別の知識や技能が相互に関連付けられて一般化され、「統合的な理解」となった児童・生徒の姿を描き出せるよう更に検討すべきではないか。

## 2. 分かりやすさ、シンプルさの一層の追究

- 「深い学び」を実現する具体的なイメージを持つことができるようにするためには、学習指導要領の記述が、教師にとって分かりやすく、学校を通じて保護者や地域住民等に伝えやすいものであることも重要。（【資料1】P6 総則・評価特別部会「チェックポイント」D関連）
- こうした視点で見た際に、整理されている「見方・考え方」や「高次の資質・能力」の中には依然として記載が冗長であったり、理解が難しい用語を用いて表現されているものも散見される。
- 各教科等の本質や育みたい資質・能力を十分に表現可能な範囲において、解説との役割分担も含め（教科等の本質的な意義に焦点化できているかという視点から精査）、一層分かりやすくシンプルに示すことが可能かどうか、引き続き各WGで検討してはどうか。

## 3. 「高次の資質・能力」を踏まえた個別の資質・能力の精査

- 総則・評価特別部会においては、「高次の資質・能力」の全体を暫定的に整理した後、それらを基に各教科等WGにおいて個別の資質・能力の検討を行う際の方向性として以下を示した。（【資料1】P7）

「各教科等WGにおいて、整理した「高次の資質・能力」に基づき、より豊かな学習活動に繋がり、かつ、系統性等を損なわない範囲で、精選が可能な対象を慎重に特定しつつ、個別の資質・能力の整理を検討する。その際、表形式での示し方、「高次の資質・能力」の獲得に向けて「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための余白が十分にあるかといった視点からも検討」

- 今後、上記の方向性に加え、下記の留意点も踏まえつつ、各教科等WGで個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を進めてはどうか
  - ✓ 暫定的に現行学習指導要領の内容に基づき、高次の資質能力を整理してきたWGもあることから、今後の検討にあたっては、現行の指導内容が全て等しく重要であると安易に判断しないように留意する必要
  - ✓ 個別の資質・能力を検討していく中で「高次の資質・能力」の在り方についても往還しながら更に改善を図っていく必要

## その他「高次の資質・能力」での構造化に当たり留意すべきポイントについて

### （「高次の資質・能力」について）

- 単学年ごとに「高次の資質・能力」を示している場合などで、「高次の資質・能力」が個別の内容事項と近接してしまい資質・能力の深まりが示せていないものもあり、そういった場合は複数の「高次の資質・能力」をまとめて水準を上げることも考えられるのではないかと
- 特に「総合的な発揮」については、学びの成果として達成して欲しい姿として重要であると同時に、学習過程において、状況に応じて思考力・判断力・表現力を選択したり組み合わせたりしながら、繰り返し発揮される中で育成されていく側面を有するという視点も踏まえた示し方とすべき（一方、学習過程自体を記述するものではないことに留意が必要）
- 「高次の資質・能力」については、深い学びを実現する授業のイメージを教師が持てるようにする視点に加えて、児童生徒の多様性を包摂する授業づくりを進めるために活用するという視点も重要。このため、児童生徒の多様性を踏まえた多様なアプローチが許容されるものとなっている必要があり、そのためにも、特定の活動を想起させる狭い記載ではなく、できる限りスリムで骨太な記載とすべき

### （学校段階の特性を踏まえた共通性の確保について）

- 多くの教科を指導する小学校の教員から見ると、教科間の記載にばらつきが大きすぎると理解が進まない恐れ。各教科等の特性を踏まえつつも、各学校段階では一定の共通性を持って見られるよう抽象度の高さを含め一定の平準化が必要。他の学校段階や他教科等の表現も参考にしつつ、当該学校段階の発達段階を踏まえた「深い学び」の姿を具体的にイメージできるようになるかという共通の視点をもって検討が必要

### （資質・能力の3つの柱の性質を踏まえた整理について）

- 並列パターン、並行パターンといった形式上の違いはあれど、資質・能力の整理は本質的なところで共通している必要。特に「思考力・判断力・表現力等」については、これまでに習得した知識や技能を活用して、実社会・実生活などの場面を想定した課題解決に近い形で資質・能力を発揮するという性質の柱であり、「知識及び技能」とりわけ技能との適切な整理が必要。「学びに向かう力・人間性等」は「思考力・判断力・表現力等」の中で見取る方向で検討していることも踏まえ、異なる整理をしている教科においては、引き続き検討が必要

#### 4. 今般の構造化を単元・授業づくりに活かすプロセスの可視化

- 「高次の資質・能力」を基にした今般の構造化・表形式化は、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」について学びの深まりを可視化するとともに、それらを一体的に育成する学習の在り方を示し、教師一人一人が「深い学び」を具現化しやすくすることを目指すもの。
- 一方で、整理・構造化された資質・能力について理解を深めることと、それらを活用して実際の単元・授業づくりに活かすこととの間には依然としてギャップがあるものと考えられる。「資質・能力」の深まりを捉えた後、それを実現する単元・授業をどのように構想し、実践に繋げていけばよいかを考えることは、特に経験の浅い教師にとっては、難しい場合もある。
- そのため、構造化・表形式化する学習指導要領について、単元・授業づくりのどのような場面でどのように活用することで授業改善に繋げていくことができるのか、各教科等ごとに参考イメージを示すことにより、指導主事や経験が豊かな教師が、経験の浅い教師を指導する際のイメージを共有できるようにすることを検討してはどうか。 **(補足イメージ参照)**
- ※ このことに関わって、前回改訂時の中教審答申においては各教科等固有の「深い学び」を実現する学習過程を精緻に示す試みが行われたが、多くの要素が盛り込まれ、教科等によっては複雑で実現が難しいものとなったとの指摘もある。また今般、個別最適な学びの実現の観点も踏まえ、「個に応じた学習過程」の充実を目指すこととしている。これらを踏まえると、今回は単一の学習過程を整理するのではなく、子供一人一人が深い学びを実現するための専門職としての教師の多様な単元・授業づくりを支えるという視点から、上記のように、構造化・表形式化された学習指導要領の活用イメージとして、参考資料を示すことが適当ではないか。
- ※ その際、このイメージはあくまでも参考の一つとして示し、現場の実践を過度に縛るものにならないよう留意が必要。実践者が子供の実態を踏まえて、多様で豊かな単元・授業づくりを行う際の足掛かりの一つと位置づけてはどうか。

#### 5. 用語の一層の整理・検討（高次の資質・能力）

- 企画特別部会では、今回の学習指導要領の一層の構造化の核となるものとして、「知識及び技能」の深まりを示すものを「中核的な概念の深い理解」、「思考力・判断力・表現力等」の深まりを示すものを「複雑な課題の解決」と仮称し、それらをまとめて「中核的な概念等」と呼んで整理していたところ。
- これらの用語について、総則・評価特別部会では、新たな用語が増えることを避け、一人一人の教師が現行の学習指導要領の延長線上に今回の構造化を理解することができるようにする観点から、資質・能力の深まりを示すものを「知識及び技能の統合的な理解」「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」、それらをまとめて「高次の資質・能力」と呼ぶことと整理した。 **(【資料1】P3参照)**
- 「統合的な理解」「総合的な発揮」の呼称については、今回の構造化の趣旨の理解を進める上で効果的に働いている一方、「高次の資質・能力」という語については、各教科等WGでは、学校現場には単に「レベルの高い高度な資質・能力」として受け取られる等の誤解を招くのではないかといった懸念もあったところ。
- こうしたことも踏まえ、「高次の資質・能力」という用語については、今回の構造化を検討・議論する上の「足場」としては重要であり引き続き使用することとしつつも、実際に学習指導要領を告示する段階に向けて、更に適切な語があればそれを用いることとするか、または告示文の中ではあえて用いない（「統合的な理解」「総合的な発揮」のみで説明）こととしてはどうか。

## 6. 趣旨を実現するための教科書の在り方の更なる検討

- 企画特別部会の論点整理においては、今般の構造化の趣旨を踏まえて教科書の内容は「統合的な理解」「総合的な発揮」をつかみ取りやすくなるものに精選していくとともに、その分量の在り方に関しては、調整授業時数制度の下で、調整後の時数で十分に指導可能なものとなるよう検討すべきとの方針を示している。
- 一方で、教科書会社からは、そうした「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい教科書は具体的にどのようなものかイメージが湧きにくいという声もあり、総則・評価特別部会においては、各教科等WGにおいて「高次の資質・能力をつかみやすい当該教科等の教科書の在り方について、内容の精選の在り方も含めて検討を行う」方針が示されているところ。（【資料1】P7）
- これらの方針を踏まえつつ、各教科等WGにおいては、
  - 3. に示す個別の資質・能力の整理と必要に応じた精選の検討を着実に進めていくとともに、
  - 「高次の資質・能力」をつかみ取りやすい単元・授業づくりに資する観点から、現在の教科書のどいった内容を精選対象とすることが考えられるか、またどいった構成上の工夫が考えられるかといった点についてのアイデア出しを行い、教科書会社における教科用図書の編纂の参考となるよう検討を進める
 こととしてはどうか。
- 中央教育審議会におけるこれらの検討状況も踏まえつつ、調整授業時数制度を活用して標準を下回って時数を設定した後の授業時数でも、教科用図書の内容を適切に取り扱った指導が可能となるような教科書編纂を促すための仕組み作りなどについて、検定調査審議会において具体的に検討することとしてはどうか。

## 7. 構造化・表形式化・デジタル化・調整授業時数・個に応じた学習過程の関係性の整理

- これまで、学習指導要領の構造化・表形式化と、デジタル化、調整授業時数制度をはじめとする柔軟な教育課程編成を促す仕組み、個に応じた学習過程の充実については、それぞれ一定の検討時間を要するものであったため、トピックを分けて具体化の議論を進めて来た。
- もとより、これらの方策はいずれも密接に関連している（※）ものであることから、トピックごとに一定の具体化が進んできた現段階において、相互の関係を改めてしっかりと可視化し、学校現場が一体的に理解できるよう示していくことが重要ではないか。

（※）相互の密接な関連の例

- 「高次の資質・能力」に基づく構造化・表形式化は、各教科等の「深い学び」を実現しやすくするために重要であるだけでなく、各学校が子供の実態に応じた柔軟な教育課程を編成したり、個に応じた多様な学習過程を充実する中であっても、外してはならない教育課程の「軸」を明確化する役割も有している。
- 「高次の資質・能力」で示した教育課程の「軸」をおさえつつ、子供の実態に合わせた柔軟な教育課程を編成・実施していく上では、系統性を確保しながら多様な実践アイデアを練る必要がある。このため、学習指導要領に示された内容を様々な角度から比較・参照して理解することや、データで出力して進捗管理に活用することを可能とするなど、学習指導要領のデジタル化による利便性の向上・活用幅の拡大が効果的と考えられる。
- 多様な子供一人一人に深い学びを実現していくためには、調整授業時数制度を用いて学校レベルでの教育課程を柔軟化することも重要であるが、その先に個々の児童生徒のレベルでの学習過程の質が個に応じたものとして改善していくことが求められる。そのためには、学習方略の指導等を含め、個に応じた学習過程の充実を支える方策の充実が重要となる。
- そのため、今後総則・評価特別部会において、これらの方策がどのように相互に関連しているかを一層明らかにしつつ、その結果としてどのような単元・授業づくりを目指そうとしているのかを取りまとめにおいて可能な限り示していくことが考えられるのではないか。

## (第4回WGで示した改訂案)

思考力、判断力、 表現力等	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
	総合的な発揮 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いて話し合ったりして考えを広げ深めることができる。	総合的な発揮 目的などに応じて、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる。	総合的な発揮 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、日常生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。
	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)
側面①	統合的な理解		
側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

## 改訂案

思考力、判断力、 表現力等	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
側面①	統合的な理解		
側面②	幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

## (第4回WGで示した改訂案)

思考力、判断力、  
表現力等

A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
総合的な発揮 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。	総合的な発揮 目的などに応じて、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に伝えるように工夫して文章を書くことができる。	総合的な発揮 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、社会生活に関わる課題や出来事、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。
統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)
統合的な理解		
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

知識及び技能

側面①

側面②

## 改訂案

思考力、判断力、  
表現力等

A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
統合的な理解		
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

知識及び技能

側面①

側面②

## (第4回WGで示した改訂案)

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
	総合的な発揮 目的などに応じて、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に話すとともに、相手の話を聞いたり話し合ったりして考えを広げ深めることができる。	総合的な発揮 目的などに応じて、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に表現した文章を書くことができる。	総合的な発揮 目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、生涯にわたる社会生活に関わる課題や出来事などと結びつけながら考えを広げ深めることができる。
側面①	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)
側面②	統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

## 改訂案

思考力、判断力、表現力等

知識及び技能

	A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるときに、他者とのやり取りを通して自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論拠を明確にして伝えることができる。	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
側面①	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	統合的な理解 生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
側面②	統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。		

## (第4回WGで示した改訂案)

思考力、判断力、表現力等

B書くこと	C読むこと
総合的な発揮	総合的な発揮
目的などに応じて、自分の経験などについて、自分の考えや感じたことなどを相手に的確に伝わるように効果的に表現した文章を書くことができる。	目的などに応じて文章を読んで内容を理解し、自分の経験などと結び付けながら考えを広げ深めることができる。
統合的な理解	統合的な理解
生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、目的などに応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)
統合的な理解	
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、生涯にわたる社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	

知識及び技能  
側面①  
側面②

## 改訂案

思考力、判断力、表現力等

B書くこと	C読むこと
総合的な発揮	総合的な発揮
相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、 <u>思いを効果的に伝える</u> ことができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、 <u>理解や解釈したことを踏まえて</u> 自分の考えを広げ深めることができる。
統合的な理解	統合的な理解
生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、 <u>相手や状況</u> 、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	生涯にわたる社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方を身に付け、 <u>状況や目的</u> に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
統合的な理解	
幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	

知識及び技能  
側面①  
側面②

## 「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント(案)

### 【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核(「見方・考え方」)に照らし適切なものであるといえるか

### 【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

### 【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を総合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

### 【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか(系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等)